

平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

児童自立支援施設の措置児童の被害実態の的確な把握と支援方策等に関する調査研究報告書（第1報告）

<実施主体名>

主任研究者：野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

研究班構成員：山本 恒雄（愛育研究所 客員研究員）

亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター 副センター長）

研究協力者：仲 真紀子（立命館大学総合心理学部 教授）

浅野 恭子（大阪府立障がい者自立センター 所長）

藤原志帆子（特定非営利活動法人 人身取引被害者サポートセンター ライトハウス 代表）

<要旨>

本研究では、児童自立支援施設の被措置児童の性暴力・性的搾取被害の実態把握と支援方策等について検討することを目的とし、児童自立支援施設におけるヒアリング調査を継続するとともに、新たな取り組みとしてトラウマインフォームド・ケア（TIC）に関する研修と被害事実確認面接（司法面接）の研修を行い、それぞれの研修受講者を対象とした質問紙調査を実施した。また、児童自立支援施設での活用を想定した子ども向け、及び支援者向けのTICの心理教育教材を開発し、研究班サイトでの公開を行った。

本研究では、以下の4つの調査が実施された。各調査の概要は、下記の通りである。

【調査1】児童自立支援施設におけるトラウマインフォームド・ケアの導入に関するヒアリング調査とその検討；3機関を対象にヒアリング調査を実施した。TICの取り組みを実施している機関では、一定の有用性が認識されており、組織全体での共有と継続性が課題となっていた。また、女子児童に対する職員のリスク管理等の課題が示された。

【調査2】児童自立支援施設におけるトラウマインフォームド・ケア研修（試行）とその検討；全国で4回の研修を開催し、受講者のうち134名が質問紙調査に回答した。自由記述の分析では、TICの有用性ととともに支援者の心理教育に対する不安や抵抗感が示され、支援者にTICを周知する必要性が確認された。講義録として「第Ⅰ部：トラウマインフォームド・ケアを学ぶ ～トラウマのメガネでみてみよう～」 「第Ⅱ部：トラウマ体験後の回復・成長 ～トラウマインフォームド・ケアの考え方～」を掲載した。

【調査3】被害事実確認面接（司法面接）の実施状況把握と基本的技術の実装強化のための研修と評価；全国で計5回、計180人を対象としたトレーニング研修を実施し、司法面接の実態状況を把握した。調査の結果から専門面接の技術維持の必要性が確認された。

【調査4】トラウマインフォームド・ケアに関する心理教育教材の評価と開発；調査1及び2から把握された現場のニーズと、昨年度作成物へのフォードバック調査をふまえ、児童向け心理教育用教材（小冊子）『わたしに何が起きているの？ ～自分についてもっとわかるために～（改訂版）』と、支援者向け心理教育用教材（リーフレット）『児童福祉におけるトラウマインフォームド・ケア ～支援者の健康と安全からはじまる子どものケア～』の2種類の教材を開発した。各教材は、報告書データとともに、研究班サイト「性的搾取からの子どもの安全 Seeking Sexual Safety for Children (3SC)」（URL <http://csh-lab.com/3sc/>）にてダウンロードができるように設定して公開した。